

特集—平城宮跡歴史公園「朱雀門ひろば」

令和に思う、奈良の都



近鉄奈良線の大和西大寺駅と新大宮駅の間に広大な緑地空間が広がっている。かつてこの場所には、奈良時代の日本の首都、平城京の中核「平城宮」が存在していた。2008年（平成20年）から「平城宮跡」一帯を国営公園とする事業が進められ、その一環として観光拠点の「朱雀門ひろば」が2018年（平成30年）に完成した。

平城宮跡歴史公園

ユネスコ世界遺産

国の存亡をかけて造られた首都“平城京”

710年（和銅3年）、飛鳥に近い藤原京から、奈良盆地の北端に新しく造られた「平城京」に都が遷された。平城京の造営は、諸外国に天皇の権威を示すための、国の存亡をかけた一大プロジェクトであったという。当時の最先端を誇る唐の長安をモデルに設計された平城京は、南北約5km、東西約6kmにわたって碁盤の目状に区画され、その中央北端に政治・行政の中心となる「平城宮」が造られた。平城宮には、天皇の住まいである内裏のほか、天皇の即位など国家的な儀式を行う大極殿や役所が置かれ、およそ7千人の役人が働いていたとされる。

土の下に眠る歴史・文化資産を活用する

784年（延暦3年）、首都が長岡京へ遷ると、平城京一帯は田畑となり都の記憶も薄れていく。江戸時代末期になって行われた「平城宮跡」の調査研究を端緒に、有志による保存活動が進められた。1922年（大正11年）に史跡に指定されて以降は、国により継続的に保存・整備が図られ、1998年（平成10年）には平城宮跡を含む「古都奈良の文化財」が文化遺産に登録された。

平城宮跡は、長らく田畑でありつづけたことで、骨格がそのまま土の下に保存され、当時の敷地のほぼ全域が市街地化されることなく遺されている。そのため、現存する建造物はないも

の「奈良時代の都の都市計画の様子を見て取ることができ、首都の繁栄の証拠がこのさされている」として、文化遺産登録への評価につながったのである。

2008年（平成20年）にはじまった国営公園「平城宮跡歴史公園」の整備事業は、土の下に眠っていたこの貴重な遺産を適切に保存・活用することを目的としている。「奈良時代に今を感じる」空間の創出を基本理念に、132haにわたる計画地で、建物の復元をはじめとした壮大な整備事業が現在も進められている。



提供：国土交通省 国営飛鳥歴史公園事務所



鹿島建物管理概要

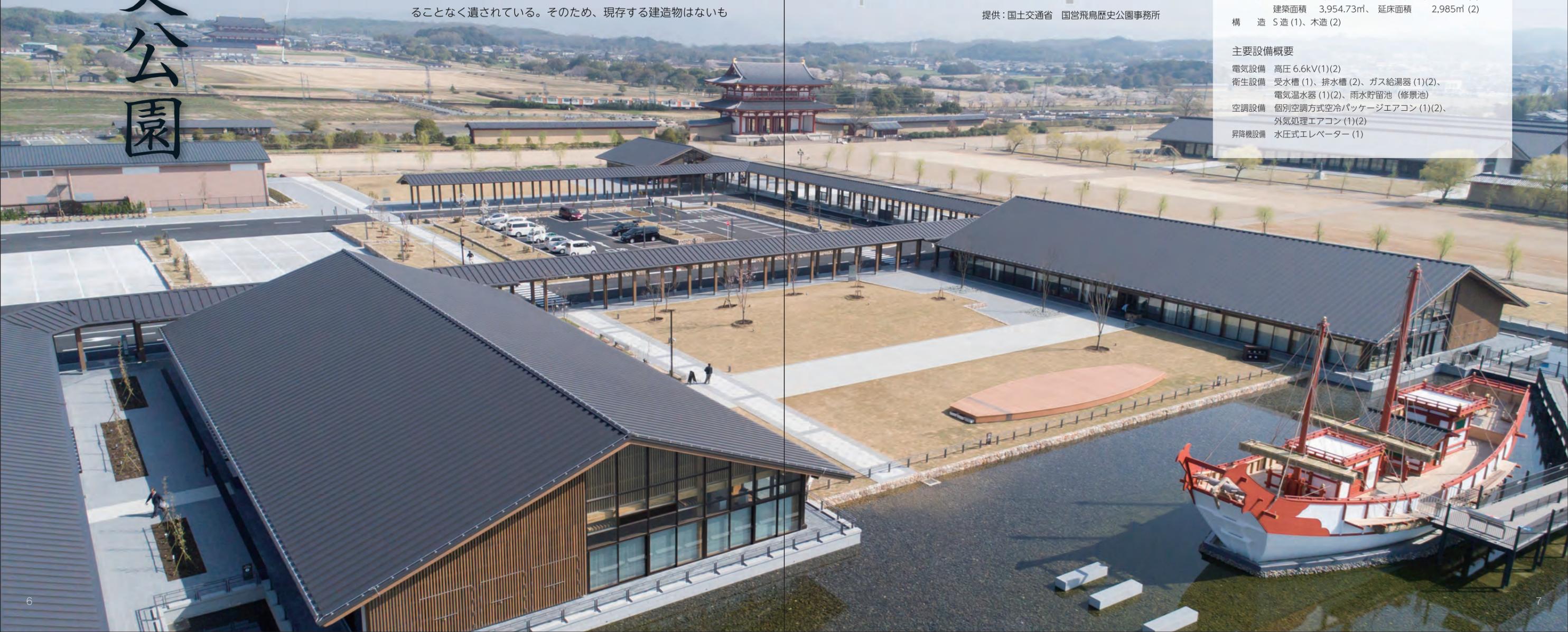
管理開始 2017年12月
管理内容 設備管理業務（日常・定期点検）、清掃業務、警備業務
管轄 関西支社

建築概要

施設名称 奈良県立平城宮跡歴史公園（朱雀門ひろば）
(1) 天平みはらし館
(2) 天平つどい館、天平みつき館、天平うまし館、ターミナルシェルター
所在地 奈良県奈良市二条大路南4丁目6-1（朱雀大路西側）
主要用途 観光施設（休憩所・待合所・物販店・飲食店・屋外駐車場）
設計 株式会社上村建築設計事務所（1）
株式会社ニュージエック（2）
施工 株式会社中尾組（1）、中西建設株式会社（2）
面積 建築面積 1,275.89㎡、延床面積 1,721.88㎡（1）
建築面積 3,954.73㎡、延床面積 2,985㎡（2）
構造 S造（1）、木造（2）

主要設備概要

電気設備 高圧 6.6kV(1)(2)
衛生設備 受水槽（1）、排水槽（2）、ガス給湯器（1)(2)、電気温水器（1)(2)、雨水貯留池（修景池）
空調設備 個別空調方式空冷パッケージエアコン（1)(2)、外気処理エアコン（1)(2)
昇降機設備 水圧式エレベーター（1）





再興する祝祭のにぎわい 朱雀門ひろば

2018年3月24日、平城宮跡歴史公園の“拠点ゾーン”に、観光拠点「朱雀門ひろば」が開園した。平城宮跡の正面玄関にあたる、この朱雀門前の広場は、奈良時代の人々にとって祝祭の場であったといわれている。往時の平城京のスケールを感じさせる広がりのある空間づくりがめざされ、平城京のメインストリートであった「朱雀大路」と朱雀門前の「二条大路」の一部が復元整備された。



- 1 天平みはらし館から望む朱雀門
- 2 天平うまし館内のカフェ“IRACA COFFEE”
- 3 平日は全国各地から訪れる修学旅行生でにぎわう
- 4 芝生に並べられた床几では、県内の学生・社会人茶道部によるお点前でほっとひと息（天平祭）
- 5 天平みつき館内にあるスーベニアショップでは奈良らしい、お土産を買うことができる



平城京のスケールとにぎわいを現代に



ゴールデンウィーク期間に開催される天平祭。朱雀大路で行われる天平行列には地元の企業や大学から市民が参加。往時の衣装を身にまとい、平城京絵巻を現出させる

朱雀大路を軸にして、東西に平城宮跡歴史公園を一層楽しむための5つの施設が配置された。東側の展示エリアにある“平城宮いざない館”では、映像や出土品展示、体感型の展示を通じて、公園の見どころや整備事業の進捗、平城宮の歴史・文化を学ぶことができる。西側のターミナルエリアには、交通ターミナルを中心に、

- ・“天平みはらし館” 休憩・展望施設
 - ・“天平つどい館” 修学旅行など団体向けの集合・休憩施設
 - ・“天平みつき館” 観光案内・物販施設
 - ・“天平うまし館” 奈良の食材を味わうレストラン・カフェ施設
- の4施設が整備された。

「朱雀門ひろばの完成によって、観光施設としての機能が充実し、より多くの来訪者を迎え入れる受け皿ができた」とター

ミナルエリアの運営管理を行う共同事業体の代表構成企業 株式会社GPMO 代表取締役社長 神原氏は語る。

「田畑となって忘れ去られていた時代から、発掘や研究が進んで、この場所の価値が見いだされました。それが、分かる人には分かる、という状態ではもったいない。より多くの人に、体感して楽しんでもらうことで、この場所がさらに輝きをもってくると考えています。

朱雀門ひろばでの食事や買い物、イベントを目当てに遊びに来てもらい、平城宮跡や奈良時代の生活・文化、この公園での取り組みに興味をもってもらえたら嬉しいです」

地域のひろばとして

朱雀大路は、そのスケールを活かしてイベント会場としても活用されている。

「年に4回、平城宮跡にぎわいづくり実行委員会が主体となったイベントを開催しています。この委員会は、平城宮跡の事業者や管理運営者のほか、地域の大学や企業により組織されており、平城宮跡を奈良のにぎわいの核とすることで、奈良県全体の価値を高めていくことをめざしています」

平城宮跡歴史公園は文化施設・観光施設であると同時に、地域の公園としての役割も担っている。朱雀門ひろばでは、人が集い、商いが行われ、生活・文化が交錯する“従来の案内所や観光施設の域を超えた公共の場”とすることがめざされている。

「奈良のにぎわいのひろばとなり、ここから活力を生み出して、近隣地域や奈良全体の活性化に貢献していきたいです」

TALK
TO 対談
TALK

奈良から令和、未来へつなぐ

朱雀門ひろばのターミナルエリアは、株式会社 GPMO を代表構成員とした7社による共同事業体「平城京再生プロジェクト」が、奈良県からの指定管理を受け、運営・管理を行っている。鹿島建物は、4施設を含むターミナルエリア一帯の建物・設備管理、清掃、警備の統括管理を担当している。

だれもがそれぞれに楽しめる公園として



神原様 私たちの管理運営の基本方針は、公園として“すべての方に”楽しんでいただくことです。それには、運営サイドにも様々な引き出しが必要です。『平城京再生プロジェクト』は、幅広い・様々なカテゴリのお客様のニーズに対して、ふさわしいサービスを提供できるメンバーで組むことができました。

竹垣様 ハードの面では、バリアフリーや多言語対応、対象年齢を変えたコンテンツの提供など、施策が進んでいます。ソフトのサービスの方ではマニュアルを作成しましたが、自然発生的なオペレーションが多いので現場スタッフの臨機応変な対応に頼っている面もあります。

久保田 まだ開園から1年ですが、平城宮跡の方は刻々と変化していますね。復元工事中の南門が2022年に完成し、その後南門の横に東西楼がつけられ、第1次大極殿までつなぐ回廊ができていく。杭や土台の跡だけだった場所が、復元建造物によって奈良時代を体感しやすくなるにつれ、訪れる人がどんどん増えていくと思います。

神原様 朱雀門ひろばも、平城宮跡の変化に合わせてカタチを変えていかなければならないと思います。様々な用途の建物や大規模施設に熟知した鹿島建物さんには、そうした施設の変化への対応力にも期待しているところです。

山本 鹿島建物は全国2,000施設を管理しており、大型の商業施設やイベントホール・展示場など、人がわっと集まってわっと引くような集客施設の管理実績も多くあります。そこで培ってきたノウハウは必ず活かせると思っています。



竹垣様 集客力アップは奈良県の活性化に貢献できますが、地元の人にとっては、来訪者が増えることでご迷惑になることがあるかもしれません。それを受け入れていただくための努力が必要です。

久保田 まずは、誰に対してでも常に誠意をもって接することが大切だと思っています。ここに来るといつも気持ちの良い応対を受けられると感じていただくことで、カフェができて便利になった、イベントで楽しみが増えたといったようなことにも目を向けてくださるようになるのかな、と。



写真上：奈良観光の窓口を設けた天平みつき館
写真左：竹垣様「遠足の子供たちが芝生でお弁当を広げている光景は和みますね。この日常風景も鹿島建物さんの丁寧な芝生管理のためものです」

過去と未来をつなぐ公園として



山本 この施設は、訪れる人も様々ですし、運営・管理にあたる関係者も多く、どんな人とも穏やかに向き合えるようでないといけないと思っています。その点、久保田は当社のなかでも特に優しさで真面目がウリのタイプですから(笑)。

竹垣様 この1年で、頼れる存在としてすっかり名が売れています。インカムには1日に何度も久保田さんと呼ぶ声が入ってくる。設備の不具合や急な清掃の依頼など、すぐに対処して下さるので現場スタッフからは“マジシャン久保田”と呼ばれるほどです。

久保田 設備の不具合などは内容によってはその場で対処できないこともあるので、その場合はまずしっかり応急処置をして、利用者の安全を確保するようにしています。

竹垣様 今後、平城宮跡歴史公園では、国土交通省が主導するスマートシティの取り組みのひとつとして、“パークスマートチャレンジ”を展開していく予定です。AIやIoT、AR、自動運転などの先端技術を取り入れて、公園の抱える課題の解決や、サービス品質の向上をめざしていきます。

山本 近年、鹿島建物でもAIやIoTなどの先端技術を建物管理分野で活用する取り組みを進めています。まだ実証実

験段階の技術もありますが、公園の管理運営のスマート化に貢献していきたいと考えています。

神原様 このチャレンジには、メンバー企業さんの協力が不可欠です。鹿島建物さんの先進的な取り組みやチャレンジに積極的な企業姿勢も心強く思っています。この場所でもとに挑戦しながら、時と人と場をつなぐ、朱雀門ひろばの大きな使命を果たしていきましょう。



写真左より
平城京再生プロジェクト 統括マネージャー 竹垣 省吾 様
株式会社 GPMO 代表取締役社長 神原 孝行 様
鹿島建物総合管理株式会社 関西支社 建物管理部 久保田 真司
鹿島建物総合管理株式会社 関西支社 取締役常務執行役員 支社長 山本 謙治



新鮮な視点と心でみる

巡回点検の際は、いつも新しい視点で見て回ることを心掛けています。
あえて通常と違うルートで回ったり、注目する場所を変えてみたりすることで、危険箇所や汚れの早期発見に努めています。